

平成 20 年 11 月 11 日
京都府立海洋高等学校

特集

合格体験記 No.4

京都産業大学経済学部経済学科合格

3年1組 杉井 亮太

私が進学先を真剣に考え出したのは、2年の後半からでした。とはいっても、自分が本当に学びたいことは何なのかわからず、希望進学先がなかなか決まりませんでした。始めは、水産系の大学を希望していましたが、多くの先輩達が水産系の大学に進学しているから、自分もそれに流されているだけだということに気がつきました。

そこで、本当によく考えた結果、食料問題に関連して経済学に興味を持ちました。そして、私は経済学部のAO入試を受けることにしました。AO入試は成績だけでなく、部活動や資格取得、ボランティア活動なども評価されるものであり、まさに自分にあっていると思いました。自己アピール書に野球部で副主将を務めたことや多くの資格を取得したこと、研究発表、府内実力テストで良い点を取ったことなどを書きました。その時、今まで部活を辞めずに三年間続け、資格を多く取得して本当に良かったと思いました。

私の受験した大学は、今までに海洋高校からの受験者がなくて、進路相談室にも過去の先輩方の受験報告書がなく、対策の立て方が非常に難しかったです。私は夏休みの間に本を30冊、新聞を毎日読み一次選考の模擬講義はきちんと理解し、小論文も納得の出来るものが書けました。二次選考でも研究発表のデータと部活動の経験を生かし、良いプレゼンテーションが出来ました。

二次選考から合格発表までの2週間がすごく長く感じました。そして、合格が決まった時は今まで頑張ってきて良かったと強く思いました。何事にも粘り強く継続していくことが大切であると心から思いました。この合格は先生方の指導が無ければ決して勝ち取れませんでした。本当に有難うございました。



京都府立海洋高等学校

〒626-0074

京都府宮津市字上司 1567-1

Tel 0772-25-0331

Fax 0772-25-0332

<http://www1.kyoto-be.ne.jp/kaiyou-hs/>

e-mail:kaiyou-hs@kyoto-be.ne.jp

近畿大学農学部水産学科合格

3年1組13番 中村恵士

私は、海洋高校の入学と同時に下宿生活を始めました。親も友達もいない、知らない土地に住むことになりとても不安でした。しかし、すぐに気持ちを切り替えたおかげで友人も多くでき、宮津の土地を好きになることができました。

また、部活動は、中学時代にしていたこともあり、高校でバレー部に入りました。練習が厳しく最初はすぐに辞めようと思いましたが、練習が徐々に楽しくなり辞めることが出来なくなりました。2年次にはキャプテンに任命され、不安もありましたが、創部初の両丹地区ベスト4に入ることが出来ました。

私は試験で、面接と小論文が嫌いでした。人と話すことが嫌いですし、自分の思ったことや感じたことを文章にすることが不得意だったからです。近畿大学のAO入試の要項を見た時、「やばい」と思いました。なぜなら、2次試験で面接と小論文が課題となっていたからです。

5月の中旬から小論文の練習を始め、2日に1枚のペースで見てもらいました。書き始めた当初は自分でも恥ずかしいくらいダメな文章でしたが、枚数を重ねるにつれて先生から「ちょっとは上手くなった」と言われとても嬉しかったです。

小論文を書き始め1ヶ月が経ちました。その時期は、まだ部活がありました。高校最後の試合が間近に迫っていたので、バレーに力が入り小論文を書くのをサボる様になりました。課題を貰ってから一週間が経ち先生に呼ばれ、ひどく怒られました。「あんたが言い出したことやろ」と言われ、部活を理由に自分に甘えていたことを自覚しました。

1学期の終盤に先生と面接練習がありました。先生の質問が理解できず、どう答えていいのかわかりませんでした。1回目の面接練習は最悪な形で終わってしまいました。家に帰り質問されたことをノートに書き、回答を考えました。

1次試験が志望理由書と調査書だったので、夏休みに入り志望理由を考え始めました。何度書いても、先生に「気に入らん」と言われましたが、何度も書き色々な先生に見てもらい夜遅くまで努力した結果、提出期限ギリギリに完成することが出来ました。

1次試験の結果が合格だったので、小論文は毎日書き、面接練習も頑張りました。2次試験の前日に「落ち着いたら大丈夫や」と先生に言われ、頑張ろうと思いました。

2次試験の当日。大変緊張しましたが先生の言葉を思い出し、家を出ました。小論文の出来は納得のいくものではありませんでしたが、時間内には書ききることが出来ました。2時間後に面接が始まり所々ミスってしまいましたが、試験官の目をみて、大きな声で話すことが出来ました。

近畿大学から通知が来たとき、封筒の薄さに戸惑いました。「まさか」と思い封筒を見ると合格と書いてありました。まずは枕に叫びました。次に母親に電話し、泣いて喜んでもらい、次に学校に行きました。多くの先生方から「おめでとう」「奇跡やな」と言われとても嬉しかったです。

近畿大学の合格まで支えていただき本当にありがとうございました。



